

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	自治体名 沖縄県那覇市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	沖映通りで 見て！聞いて！食べて！作って！考えてみよう！ 防災でつなげるヒトと地域！ 防災でつながる現在・過去・未来！		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	ななほしてんとうむし会		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	1.市民	
チームメンバー数(公開)	6名		
代表者(公開)	知念 日和		
メンバー(公開)	糸数 貴子、館岡 舞、知念 千夏		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、[どのような社会的活動\(サービス\)を行うのかを具体的に示してください。](#)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

津波警戒区域にあるという、なんとなくの不安、なんとなくの大丈夫じゃん？

を、具体的な行動と学びと遊びで自信に変える、地域住民と企業・店舗をつなぎ沖映通りを防災で地域活性化

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

沖映通りで見て！聞いて！食べて！作って！考えてみよう！

防災でつなげるヒトと地域！ 防災でつなげる現在・過去・未来！

防災をキーワードに、沖映通りの歴史・文化を知る機会をつくることで、暮らす人、働く人がつながり、共に沖映通りにプライドをもち、不安を自信に変える。沖映通りを訪れる人を大切にすることで、現在が過去とも未来ともつながっていく…という大きなビジョンをかかげた、小さな”しかけ”をする8つのアイデア

1 防災観光マップを見て考えてもらう ※当会が 2025 年 1 月に頑張る！

災害時に手元になくても普段から見て考えておくことで、判断ができるようになる。従業員が事前に目を通しておくことでイザというときに適切な避難誘導ができる。

なるべく多くのおみなさんに届けたい。例えば…

- ★沖映通り商店街の企業・店舗→お客さんが自由に取れるように設置
- ★那覇小学校→児童と教職員に配布
- ★那覇市観光協会→観光案内所→観光客が自由にとれるように
- ★モノレール美栄橋駅→どうぞご自由にコーナーに
- ★ホテル、レンタカー →観光客 その他必要なところに



2 海拔表示ステッカーで紙上ミニワークショップ ※当会が 2025 年 1 月に頑張る！

店舗や事業所に貼ってもらう海拔表示ステッカーには、避難場所を書きこむスペースがある。それぞれの店舗・事業所で考えて記入することで、各店舗・事業所の防災意識を高める。ななほしてんとうむし会が、記入例を説明しながら配布していく。

3 防犯イルミネーション点灯式 ※沖映通り商店街振興組合さん主体で、当会は応援団として協力

当会の活動から派生して、沖映通り商店街では防犯・防災のためのイルミネーション設置を検討し、予算化している。点灯式などで防災観光マップ、海拔表示ステッカーの周知をする。

4 沖映通りアピールを兼ねた防災動画の発信 ※沖映通り商店街振興組合さん主体で、当会は応援団として協力

防災観光マップには二次元バーコードから、沖映通り商店街振興組合の防災ページへのリンクをはってある。防災ページには、沖映通りでの防災ポイントと観光に役立つミニ情報が動画で見られるのと、防災観光マップ、海拔表示ステッカーのデータがダウンロードできるようにしてある。その動画を第二弾、第三弾と続けていく。店舗ごとに防災の取材をすることで、人材育成にもなり、防災の発信、沖映通りの魅力発信につなげる。

※当会が防災観光マップを製作する過程で、沖映通り商店街振興組合さんがホームページに新たに「防災ページ」を追加してくださった。紙のマップからネットに誘導するアイデアは、商店街振興組合さんからの提案。この防災ページを充実させていく過程も防災リーダー育成につながると期待する。

5 防災観光マップの多言語化に挑戦 ※市民団体等との協力のもと、当会ががんばる

外国人支援をしている市民団体等の協力を得て、防災観光マップをそれぞれの言語に翻訳し、沖映通りの HP

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

にある防災ページに追加していく。

6 防災リーダーを養成する ※募集はステークホルダーの皆さんに呼び掛け、頑張るのはリーダー候補者本人

防災士の養成講座に沖映通り商店街振興組合さんや地域住民、従業員の中から推薦された人を派遣して防災リーダーとして活動してもらおう。防災士講座には受講料がかかるので、一部補助をして受講を促したい。補助については、なほ市民活動支援助成金など、助成金を想定している。

6の学習会を企画・運営したり、7の自主防災組織立ち上げの中心人物になったらいいな～と期待。

7 学習会・イベントの開催

気軽に来られる学習会を定期的（半年に1回程度）に行うことで、地域のなかで「また会いましたね」という関係性をはぐくみ、ヒトと地域をつなぐきっかけとする。例えば…

- ★なほマップでの防災情報の見方（見て）
- ★沖映通りの歴史から、沖映通りの特徴や危険回避を学ぶ（聞いて）
- ★防災に関係する料理講習会や防災キッチンカー（食べて）
- ★100円ショップで調達する防災工作講座（作って）
- ★自主防災組織や津波避難ビル協定について学ぶ（考えて）

など、楽しんで参加できるイベントを、ジュンク堂書店や沖映通り駅前広場などで実施。企業・店舗アンケートで参加しやすいイベントにする。

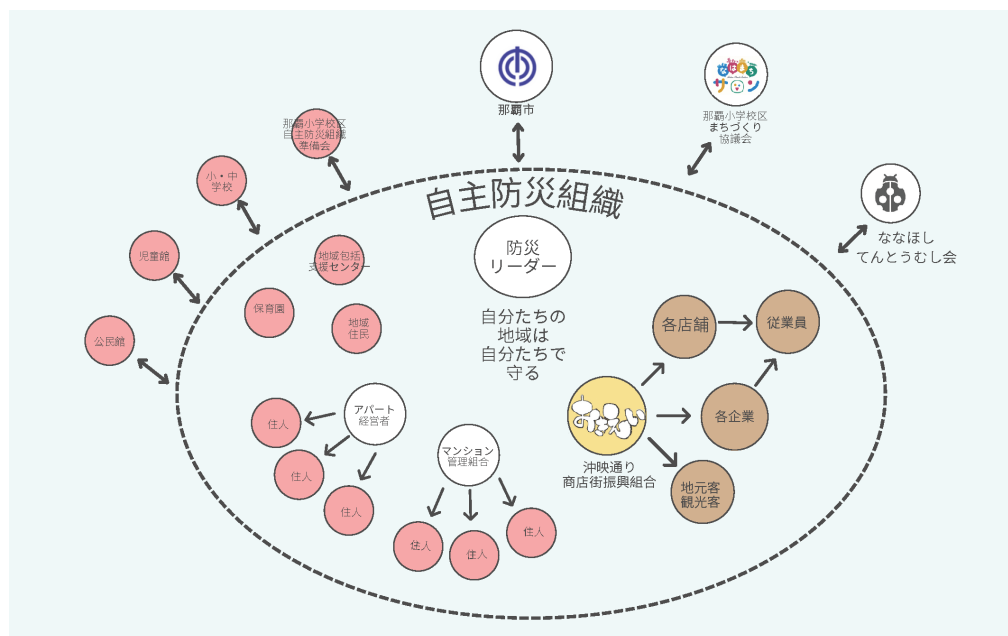
8 自主防災組織を立ち上げる

当会が活動を始めて約1年。12月15日に、沖映通り商店街振興組合、那覇小学校区まちづくり協議会（なほまちサロン）、那覇小学校区自主防災組織準備会の協力を得て、「津波警戒区域”沖映通りで具体的に避難を考える防災のお話し会」を開催した。会場は沖映通りのシンボリックなジュンク堂書店に協力していただいた。当日是那覇市の防災危機管理課をはじめ職員や、市議会議員、沖映通り会振興組合の会員など、43名が参加。

自主防災組織立ち上げの機運は高まってきているが、地域住民の参加が課題。防災リーダーを中心に、継続的な活動をするための自主防災組織を立ち上げる。



組織イメージ



そして、新たなステージで沖映通りの未来が始まる！

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

一・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

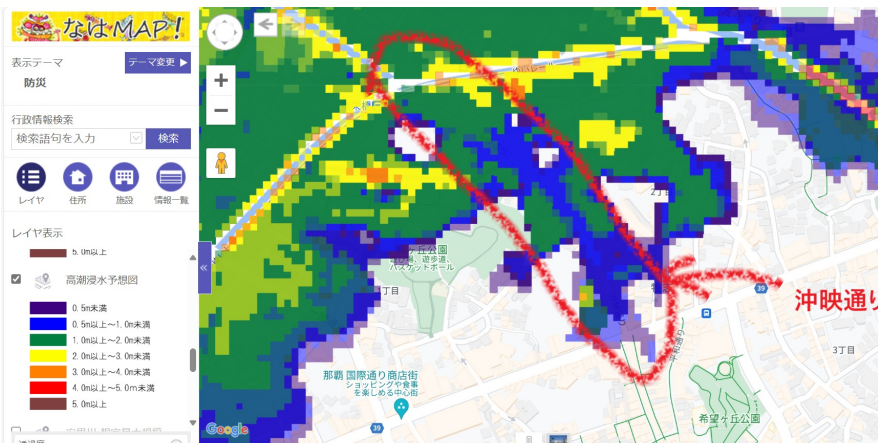
※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

なぜ沖映通りなのか？ 解決したい課題のポイントに沿ってまとめる。

1 海拔4m以下の津波・浸水・液状化といった水害の不安がいっぱいな地理的な課題

埋立地であることに加え、道路の下は暗渠になっておりガブ川が流れている。近くを安里川、潮渡川が流れ、大雨の水害や地震による液状化など、思わぬ場所から水があふれてくることが考えられる。また、海拔が低く、高いところで3.9mの津波災害警戒区域である。そうした地理的課題を補うためのインフラ整備は現状では期待できない。そのため、現在すでに存在する耐震化されているビルを津波避難ビルに指定をすることで、避難先や避難経路の情報共有が必要である。→防災観光マップと海拔表示ステッカーの製作へ



令和5年度「なは市民協働大学院中心市街地チーム」のメンバーが、ななほしてんとうむし会と団体名を変えて活動。大学院で企画したプランのうち、マップとステッカーを製作する企画で、令和6年度なは市民活動支援事業助成金を受けた。

『なはマップ』の情報と、那覇市防災危機管理課、沖映通り商店街振興組合の協力で、令和6年12月完成

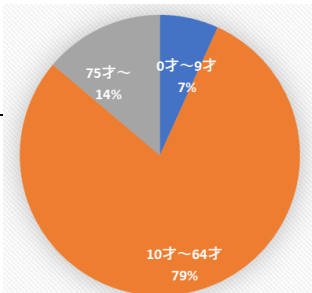


※マップは店舗やホテルで自由にとれるように設置、ステッカーはレジ横などに貼り、一番近い避難場所を事業所ごとに考えて記載する紙上ワークショップ的な役割も。防災意識を高めるグッズとして令和6年度なは市民活動支援事業助成金を活用し製作。地域に提供（配布は令和7年1月予定）

★防災観光マップと海拔表示ステッカーの製作から見た、さらなる課題を解決したい

- 1番近い緊急避難場所「緑が丘公園」が津波のときの避難場所ではなかった(知られていない)
- 那覇市と津波避難ビル協定を結んだビルが少ない(事業者にもっと呼びかけたい)
- 道路の下が暗渠になっていて川が流れているというのは知らない人も多い(知っている人が高齢化)

2 自治会も自主防災組織もなく、企業・店舗の人、住民が繋がっていない人的な課題

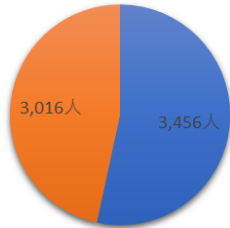


2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

A 沖映通りを有する牧志 1 丁目、2 丁目の人口は、3,456 人（世帯数は 1998）。65 歳以上の高齢人口は 886 人で、だいたい 4 人に 1 人となっている。そのうち 478 人が 75 才以上の後期高齢者である。75 才以上と 10 才未満の 234 人を足して、要配慮者と仮定すると、20.5%に上り、5 人に 1 人が要配慮者ということになる。また外国人登録数が 160 人なので災害弱者という点でさらに人数が増えると思われる。

※令和6年7月31日現在（令和6年9月統計那覇） ※外国人の人口是那覇市統計課より令和6年11月現在



■ 住民 ■ 従業員数

B 事業所数が 488 事業所で、従業員数が 3,016 人となっていることから、地域住民と従業員数がほぼ同等であり、事業主を含めると半数にかなり近いのではないかと考えられる。従業員は必ずしも土地勘があるとはいえない。ホテルやコンビニなど、外国人留学生が就労していることも多い。地域防災の知識がなければお客さんどころか自分自身を守れない可能性がある。※事業所数、従業員数は、第63回那覇市統計書（令和5年版）より

C 令和 5 年に那覇市を訪れた観光客の総数は 7,407,522 人。沖縄県全体では 8,235,400 人となっており、沖縄県を訪れた観光客の 89.9%が那覇市を訪れていると推計される。内訳は、国内客が 6,474,536 人（87%）、外国客が 932,986 人（13%）である。沖映通りはクルーズ船の寄港地から国際通りへの経路であり、外国人観光客の往来は少なくない。災害時には支援が必要である。

実際、令和 6 年 4 月 3 日に、津波避難警報が沖縄県で発令されたときに、情報が伝わらず海の方へ向かう外国人観光客に向けて沖映通り商店街振興組合の役員が、あわててアナウンスした経緯がある。観光客をどう守るのかが沖縄の観光にかかわる重要課題である。

ちなみに沖映通りの通行量は、美栄橋駅前交通広場で、平日 2650 人、休日 2950 人となっている。

※観光客数は、令和5年度版那覇市の観光統計より、通行量は、那覇市中心商店街通行料調査報告書より

D 牧志 2 丁目には自治会が無い。牧志 1 丁目の住民はくもじ地域自治会に加入することができるが、那覇市の自治会加入率は 15%であり、牧志 1 丁目の人口 1327 人の 15%は 199 人であることを考えれば、地域とつながっていない住民がかなり多く存在すると予測できる。

E 沖縄県の自主防災組織カバー率は全国最下位の 41.44%である。那覇市における自主防災組織カバー率は 11.8%（令和 6 年 9 月現在）となっていてかなり低い。沖映通り周辺においても結成されておらず、地域の防災リーダーが不在である。※沖縄県のカバー率は令和5年度消防白書より。那覇市のカバー率は那覇市防災危機管理課より

★自主防災組織の結成から人とのつながりをつくりたい

自治会も自主防災組織もなく、店舗・企業の人、住民がつながっていないままでは、**A～C** の懸念は解消されない。**D** の自治会がないことが、**E** の自主防災組織を結成できていないことにつながっているが、逆の発想で自主防災組織を結成するところから、防災リーダーを中心に企業・店舗と地域の住民をつなげていく方向をつくりたい。

3 沖映通りの歴史的・文化的な魅力が沖縄の人にも観光客にもあまり伝わっていない集客の課題

沖映通りには、かつての琉球王朝の歴史、戦後復興の歴史が詰まっている。そして文化発信の通りになりたいという沖映通り商店街振興組合のビジョンがある。歴史・文化は、防災とは関係ないような印象だが、12 月 15 日に開催した学習会のアンケートで「他県や沖縄県の状況はいろんな場面で見聞きできるけど、沖映通りの歴史と絡めながら、もしも話が聞けたのでより身近に感じることができました」「歴史的な背景と現在の防災の情報をつなげると理解しやすいと思いました」という回答があった。

防災と歴史と文化をかけあわせたイベントや勉強会で地域の人をつなげる→それぞれが歴史・文化を発信して通りへの誘客につなげる→さらに防災について学ぶ→地域の災害弱者、お客さんを守る人材育成へ

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

アイデアの流れは現在進行中とこれから始まるアイデアにわけて考える

現在進行中

- 1 防災観光マップを見て考えてもらう
- 2 海拔表示ステッカーで紙上ミニワークショップ
- 3 イルミネーション点灯式
- 4 防災動画の発信

これからはじまるアイデア

- 5 防災観光マップの多言語化に挑戦
- 6 防災リーダーを養成する
- 7 学習会・イベントの開催
- 8 自主防災組織を立ち上げる

不安が自信へ
沖映通りの未来

- 1 防災観光マップを見て考えてもらう
- 2 海拔表示ステッカーで紙上ミニワークショップ

2024(令和6)年12月現在

- 7月から製作を始めた「沖映通り防災観光マップと海拔表示ステッカー」が完成！
- 当会主催の講演会開催

2025(令和7)年1月

マップとステッカーを企業・店舗、PTA、関係機関に配布。その際に海拔表示ステッカーの記入について説明して紙上ワークショップ。

※令和6年度なは市民活動支援事業助成金を活用しての取組みだったので、報告書を2月に提出。

- 5 防災観光マップの多言語化に挑戦

那覇市統計書によれば外国人登録数は、ネパール、中国、ベトナム、韓国又は北朝鮮、フィリピン、台湾、インドネシア、米国・・・と続く。観光客を加えると、多言語化はなるべく早く行いたい。

実施主体 ななほしてんとうむし会

資源(ヒト) 外国人支援をしている市民団体、翻訳をしている会社、マップデザイナー、沖映通り商店街振興組合

(モノ) マップ、HP

(カネ) なは市民活動支援事業助成金(予定)

実施プロセス

4月～5月、助成金申請と決定

6月～7月、ネパール語、中国語、英語、韓国語の文字データつくる。

8月～9月、デザイナーに依頼してマップの原稿を変更
10月以降、沖映通り商店街振興組合の商店街振興組合のHPにアップしてもらう

- 3 イルミネーション点灯式

実施主体 沖映通り商店街振興組合

資源(ヒト) 組合所属の企業・店舗

(モノ) イルミネーション

(カネ) 那覇市頑張るマチグワー支援事業

実施プロセス

事業選定され実施が決定。イルミネーションの準備ができ次第、組合と調整に入る予定

- 6 防災リーダーを育成する

実施主体 ななほしてんとうむし会

資源(ヒト) 沖映通り商店街振興組合
那覇小学校区街づくり協議会

(カネ) なは市民活動支援事業助成金(予定)

実施プロセス

商店街振興組合や協議会から防災リーダー適任者を推薦してもらい、防災士資格取得講座に派遣する。

緑の枠内は現在進行中↓

赤い枠内はこれからはじまるアイデア↓

- 4 沖映通りアピールを兼ねた防災動画の発信

防災観光マップの三つ折り表面の二次元QRコードから、沖映通り商店街振興組合の防災ページに行くと「沖映通り防災ミニ動画 2024」が公開されている。

- 7 学習会・イベントの開催

6 / 7
定期的に学習会やイベントを行うことで、企業・店舗の人と地域住民が「あ、また会いましたね」の関係を増やす。沖映通り主催のイベントにも参加し、活動アピール。



8 企業・店舗の事業者と地域住民がつながって、自主防災組織を立ち上げる

全国的に自主防災組織の課題は「活動拠点不足」「役員の高齢化」「防災活動を主導するリーダーの不足」などがあげられる。これから組織を立ち上げるにあたって、設立後の活動を有意義なものにするためにも、ある程度課題を解決してスタートし、さらなる活動の展開につなげたい。

実施主体 沖映通り商店街振興組合と地域住民

資源(ヒト) 那覇市防災危機管理課、ななほしてんとうむし会、沖映通り商店街振興組合理事

(モノ) 活動場所、活動に必要な物資・機材 **(カネ)** 準備中は助成金等、結成時に機材等交付あり

実施プロセス 2025年1月、ニーズ調査をする(マップとステッカー配布時)

学習会・イベント時、自主防災組織の構成団体に入って欲しいところに広報チラシなどを持参し仲良くなる。

また、那覇市防災危機管理課から自主防災組織設立のメリットを話してもらう。

沖映通り商店街振興組合と育成された防災リーダーと共に組織図案を完成させて設立に向けて声掛けをはじめ

→ 結成したら新たなスタート！ ななほしてんとうむし会も沖映通りファンとして協力します